(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-335802
(P2005-335802A)
(43)公開日　平成17年12月8日(2005.12.8)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
B65D 23/00	B65D 23/00	H	3E062
B65C 3/18	B65C 3/18		3E095
B65D 23/14	B65D 23/14		
G09F 1/08	G09F 1/08	H	

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 9 頁）

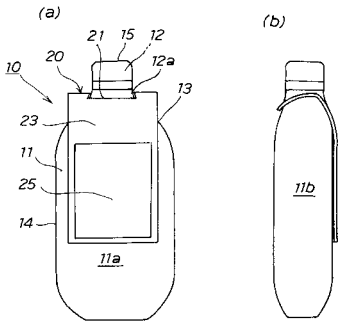
(21)出願番号　特願2004-161150 (P2004-161150)
(22)出願日　平成16年5月31日 (2004.5.31)

(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　100076532
弁理士　羽鳥　修
(74)代理人　100101292
弁理士　松嶋　善之
(74)代理人　100107205
弁理士　前田　秀一
(72)発明者　石丸　浩
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】首掛けラベル付き容器

(57)【要約】
【課題】　安価且つ簡易な可撓性フィルム材料から形成した首掛けラベルを用いて、粘着層や粘着剤を介することなく表示機能を効果的に発揮できる方向に向けて容易に首掛けラベルを装着できる首掛けラベル付き容器を提供すること。
【解決手段】　正面１１ａが幅広の扁平な容器本体１１の首部１２に可撓性フィルム材料からなる首掛けラベル２０が装着された首掛けラベル付き容器１０であって、首掛けラベル２０は、首部１２が挿入される長穴の開口部２１を備え、この長穴の開口部２１は、短手方向の最大長さWが首部１２の基端部分１２ａの外径より短く、長手方向の最大長さＬが首部１２の基端部分１２ａの外径よりも長く且つ容器本体１１の正面１１ａの最大幅より短くなっている。首掛けラベル２０は、開口部２１の長手方向を容器本体１１の扁平な断面の長手方向に沿って配置して装着される。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
正面が幅広の扁平な容器本体の首部に可撓性フィルム材料からなる首掛けラベルが装着された首掛けラベル付き容器であって、
前記首掛けラベルは、前記首部が挿入される長穴の開口部を備え、
該長穴の開口部は、短手方向の最大長さが前記首部の基端部分の外径より短く、長手方向の最大長さが前記首部の基端部分の外径よりも長く且つ前記容器本体の正面の最大幅より短い首掛けラベル付き容器。
【請求項２】
前記首掛けラベルは、前記開口部の長手方向を前記容器本体の扁平な断面の長手方向に沿って配置して装着される請求項１記載の首掛けラベル付き容器。
【請求項３】
前記首掛けラベルは、前記開口部を挟んだ両側に前記開口部の長手方向と垂直な方向に延設する表示部を備え、該表示部の少なくとも一方にポケットが設けられている請求項１又は２に記載の首掛けラベル付き容器。
【請求項４】
前記長穴の開口部は、長円形状、楕円形状、又は長方形状の開口部である請求項１～３のいずれかに記載の首掛けラベル付き容器。
【請求項５】
正面が幅広の扁平な容器本体の首部に装着して用いる可撓性フィルム材料からなる首掛けラベルであって、
前記容器本体の首部が挿入される長穴の開口部を備え、
該長穴の開口部は、短手方向の最大長さが前記首部の基端部分の外径より短く、長手方向の最大長さが前記首部の基端部分の外径よりも長く且つ前記容器本体の正面の最大幅より短い首掛けラベル。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、扁平な容器本体の首部に首掛けラベルが装着された首掛けラベル付き容器及び首掛けラベルに関する。
【背景技術】
【０００２】
特許文献１に記載の如く、容器の首部に装着される首掛けラベルとして、ラベルシートに容器の首部に係止可能な開口部を有し、ラベルシートの裏面に備える粘着層を介して容器の表面に仮止めをするものがある。また、特許文献２に記載の首掛けラベルの如く、容器の首部を通すために設けた穴に、切り込みと舌片を突設してボトルの首部に当接させてラベルを固定するものがある。
【特許文献１】特開２０００－７５７９０号公報
【特許文献２】特開２０００－３５５３１１号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
しかしながら、特許文献１の如くラベルシートの裏面の粘着層によって容器に仮止めをしてラベルを固定すると、粘着層又は粘着剤をラベルシートに塗布する等の手間がかかるとともに、仮止めをする工程が必要となる。さらに、仮止めすべき位置がずれるとラベルがよれる問題がある。また、特許文献２の如くにラベルシートの穴に設けた切り込みと舌片を容器の首部に当接させてラベルを固定させる場合には、ラベルにある程度の剛性が必要になるために、ラベルを容器本体に沿うように配置すべくラベルに折り線をつける等の加工が必要となる他、剛性のあるラベル基材を採用して十分に固定させた場合には、容器の首部にラベルを装着しにくくなる問題がある。

【０００４】
本発明は、安価且つ簡易な可撓性フィルム材料から形成した首掛けラベルを用いて、粘着層や粘着剤を介することなく表示機能を効果的に発揮できる方向に向けて容易に首掛けラベルを装着して保持しておくことのできる首掛けラベル付き容器及び首掛けラベルの提供を目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
請求項１の発明は、上記目的を達成するためになされたものであり、正面が幅広の扁平な容器本体の首部に可撓性フィルム材料からなる首掛けラベルが装着された首掛けラベル付き容器であって、前記首掛けラベルは、前記首部が挿入される長穴の開口部を備え、該長穴の開口部は、短手方向の最大長さが前記首部の基端部分の外径より短く、長手方向の最大長さが前記首部の基端部分の外径よりも長く且つ前記容器本体の正面の最大幅より短くなっている。
【０００６】
また、請求項５の発明は、上記目的を達成するためになされたものであり、正面が幅広の扁平な容器本体の首部に装着して用いる可撓性フィルム材料からなる首掛けラベルであって、前記容器本体の首部が挿入される長穴の開口部を備え、該長穴の開口部は、短手方向の最大長さが前記首部の基端部分の外径より短く、長手方向の最大長さが前記首部の基端部分の外径よりも長く且つ前記容器本体の正面の最大幅より短くなっている。
【０００７】
ここで、本発明において首掛けラベルを構成する可撓性フィルム材料は、可撓性があり容易に折り曲げることができる程度に軟質かつ薄いシート状のフィルム材料であって、例えば、ポリエチレン、無延伸ポリプロピレン（ＣＰＰ）、二軸延伸ポリプロピレン（ＯＰＰ）等の合成樹脂製フィルムや、多種の合成樹脂をラミネートしたフィルム（ＣＰＰとＯＰＰ等）等からなる合成樹脂製のフィルム材料の他、伸縮性のある繊維等からなる薄い織布や不織布、薄い紙等を用いることができる。
【０００８】
また、容器本体の首部が挿入される長穴の開口部は、例えば長円形状、楕円形状、長方形状、菱形形状等の、長手方向の長軸とこれと垂直な短手方向の短軸とを備えると共に、これらの軸に対して対称な形状を有している長穴の他、最大長さ方向である長手方向に対して垂直な短手方向の長さが、当該長手方向の最大長さよりも短くなっているその他の種々の形状の長穴を含むものである。なお、長穴の開口部を設計する際には、短手方向の最大長さを調整して首部の基端部分を押さえる力をコントロールし、長手方向の最大長さを調整して首部への装着のし易さをコントロールすることになるが、短手方向の最大長さが長手方向の最大長さに対して１０～４０％となる範囲で調整することが好ましい。
【０００９】
さらに、容器本体の首部の基端部分は、容器本体の胴部或いは肩部に近接する部分の首部であって、首掛けラベルが容器本体に装着された際に、長穴の開口部が首部に沿って下方にずれるようにして移動して安定した状態で位置決めされる部分である。また首部の基端部分の外径は、これの外側に開閉キャップが装着されている場合には、開閉キャップの外径とすることができる。さらに、キャップ又は容器本体の首部の基端部分に凹部を設けることによって、その部分で首掛けラベルを安定させることもできる。
【発明の効果】
【００１０】
本発明によれば、安価且つ簡易な可撓性フィルム材料から形成した首掛けラベルを用いて、粘着層や粘着剤を介することなく表示機能を効果的に発揮できる方向に向けて容易に首掛けラベルを装着して保持しておくことができる。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１１】
以下に、図面を用いて本発明の好ましい一実施形態について説明をする。

【００１２】
図１（ａ），（ｂ）は、本実施形態の首掛けラベル付き容器１０を示したものである。本実施形態によれば、首掛けラベル付き容器１０は、合成樹脂等からなる容器本体１１の首部１２に、首掛けラベル２０を装着した扁平なボトル形状の容器である。また、容器本体１１の首部１２の外周面には、例えば合成樹脂製のキャップ１５を着脱可能に取着するための環状凹部が設けられ、キャップ１５の内周面に設けられた環状凸部と嵌合することにより、キャップ１５が容器本体１１の首部１２に取り付けられて、容器本体１１に収容された内容物（例えば、液体、油等）を密封することができる。尚、キャップ１５の容器本体１１の首部１２への装着は、例えば首部１２の内周面に雄ネジを設け、キャップ１５の内周面に設けられた雌ネジを螺合して行うことも可能である

【００１３】
そして、本実施形態の首掛けラベル付き容器１０は、正面１１ａが幅広の扁平な容器本体１１の首部１２に可撓性フィルム材料からなる首掛けラベル２０が装着された容器であって、首掛けラベル２０は、首部１２が挿入される長穴の開口部２１を備え、この長穴の開口部２１は、短手方向の最大長さＷ（図２参照）が首部１２の基端部分１２ａの外径より短く、長手方向の最大長さＬ（図２参照）が首部１２の基端部分１２ａの外径よりも長く且つ容器本体１１の正面１１ａの最大幅より短くなっている。

【００１４】
本実施形態の首掛けラベル付き容器１０を構成する容器本体１１は、断面が略環状の首部１２と、首部１２に連続する肩部１３と、肩部１３の下方に延在する胴部１４とを備える。また、容器本体１１は、図１（ａ），（ｂ）に示す如く、当該容器本体１１の胴部１４を側面１１ｂからみた幅（（ｂ）参照）よりも正面１１ａからみた幅（（ａ）参照）が広い扁平な形状を有しており、容器本体１１における肩部１３は、正面１１ａからみて首部１２の基端部分１２ａから両側幅方向に延在している。また、容器１０の正面１１ａからみた容器本体１１の胴部１４の表面には、印刷やフィルムの塗布等による表示や装飾が施されている。

【００１５】
容器本体１１と共に首掛けラベル付き容器１０を構成する首掛けラベル２０は、可撓性があり容易に折り曲げることができる程度に軟質かつ薄いシート状の可撓性フィルム材料として、例えば厚さが２０～７０μｍ程度のＯＰＰとＣＰＰのラミネーションフィルム（好ましくは、２０μｍのＯＰＰと２０μｍのＣＰＰのラミネーションフィルム）を、適宜切断加工等することによって簡易に形成されたラベル部材である。本実施形態によれば、首掛けラベル２０は、図２にも示す如く、一端部が円弧状に湾曲する縦に長い帯状に形成されると共に、当該一端部側に片寄せて配置される首掛け形成部２２と、その両側に配置される第１表示部２３及び第２表示部２４とからなり、第２表示部２４の上部周縁が円弧状に形成されている。矩形形状の首掛け形成部２２は、キャップ１５が取着された状態の首部１２を挿入しうる首掛け開口部２１を有しており、これによって首掛け開口部２１を挟んだ両側に、第１表示部２３及び第２表示部２４が、開口部２１の長手方向と垂直な方向に延設する。また矩形形状の第１表示部２３は、首掛け形成部２２から、半楕円形状の第２表示部２４の長さよりも長く形成されており、これによって第１表示部２３の面積は第２表示部２４の面積よりも大きくなっている。さらに、面積の大きい矩形形状の第１表示部２３には、ポケット２５が設けられている。

【００１６】
ここで、容器本体１１の首部１２は、例えば容器本体１１の胴部１４から上端開口部につながる部分であって、容器本体１１のうち断面積が小さな領域をいうが、首部１２にフランジ等の張り出し部が形成されている場合には、首部２１は、張り出し部と容器本体１１の胴部１４との間の領域であっても良い。

【００１７】
首掛けラベル２０の首掛け形成部２２に形成された首掛け開口部２１は、首掛けラベル２０の長手方向に垂直をなす幅方向（横方向）に長い長穴として、長円形状に形成され、

この長円形状の短手方向である短軸方向の最大長さWは、容器本体１１における首部１２の基端部分１２ａの外径より短くなっている。また長円形状の首掛け開口部２１の長手方向である長軸方向の最大長さＬは、容器本体１１における首部１２の基端部分１２ａの外径より短く、且つ容器本体１１の胴部１４を正面１１ａからみた最大幅より小さくなっている。これらによって、首掛けラベル２０における首掛け開口部２１の周囲が撓む、又は伸縮することにより、キャップ１５が取着された状態の首部１２を挿入しうる大きさ、形状に首掛け開口部２１が容易に変形できるようになっている。即ち、首掛けラベル２０における首掛け開口部２１の周縁部全周の長さは、キャップ１５が取着された状態の首部１２の外周の最大長さよりも大きいことが必要である。

【００１８】

そして、首掛け開口部２１は、長円形状における短手方向の最大幅（最大長さ）Ｗを、キャップ１５が取着された状態の首部１２の基端部分１２ａの外径より小さくするほど、首掛けラベル２０を容器本体１１に装着した際に、首掛けラベル２０における首掛け開口部２１の周囲の撓みや伸縮に基く弾性反発力によって、首掛け開口部２１の開口縁部を首部１２の基端部分１２ａに大きな力で圧接させることが可能になる。また首掛け開口部２１の長円形状における短手方向の最大幅Ｗを小さくする一方で、長円形状における長手方向の最大長さＬを大きくすることによって、容器本体１１の首部１２を首掛け開口部２１に挿入しやすくすることができる。

【００１９】

例えば、容器本体１１の首部１２の基端部分１２ａの外径が３４ｍｍ～４０ｍｍの場合に、首掛け開口部２１の長円形状における短手方向の最大幅Ｗを１５ｍｍとすると、長手方向の最大長さＬが６５ｍｍの場合には首掛け開口部２１は首部１２の基端部分１２ａに緩く接し、長手方向の最大長さＬが５５ｍｍの場合には首掛け開口部２１は首部１２の基端部分１２ａに強く圧接し、長手方向の最大長さＬが６０ｍｍの場合には首掛け開口部２１は首部１２の基端部分１２ａに適度に圧接する。尚、首掛けラベル２０の材質にもよるが、合成樹脂製フィルムの場合には、首掛け開口部２１の長円形状における短手方向の最大幅Ｗは、容器本体１１における首部１２の基端部分１２ａの外径の約半分から首部１２の基端部分１２ａの外径より小さい範囲であれば、首掛けラベル２０を容器本体１１の首部１２の基端部分１２ａに装着した際に、首掛けラベル２０の首掛け開口部２１の近傍にシワが発生しにくい。

【００２０】

尚、長穴の開口部である首掛け開口部２１は、矩形形状等であっても良いが、例えば矩形形状の角部は、首掛け開口部２１を広げる引っ張り力等が働くと、首掛けラベル２０の材質によっては、当該角部から裂ける場合があるため、角部をR形状（又はラウンド形状）に形成することが好ましい。

【００２１】

本実施形態における首掛けラベル２０を容器本体１１に装着した際には、首掛け開口部２１の長円形状における短手方向の最大幅Ｗが容器本体１１の首部１２の基端部分１２ａの外径より小さいことから、首掛け開口部２１の長穴形状の短手方向において対向する両側縁部が、容器本体１１の首部１２の基端部分１２ａを挟み込むように圧接することで、首掛けラベル２０が装着された位置から回転することを防止する。

【００２２】

また、容器本体１１は、正面１１ａ側からみた幅が側面１１ｂ側からみた幅より広い扁平な形状をしており、例えば首掛け開口部２１の長手方向を容器本体１１の扁平な断面の長手方向に沿って配置して、首掛けラベル２０を容器本体１１に装着することにより、容器本体１１の前後双方の正面１１ａに各々沿うようにして、首掛けラベル２０の第１表示部２３と第２表示部２４が首部１２から下方に垂れ下がった状態で設けられる。

【００２３】

そして、首掛けラベル２０の第１表示部２３と第２表示部２４が容器本体１１の前後の正面１１ａに沿って各々垂れ下がっている状態から、側面側に首掛けラベル２０を回転さ

せようとしても、容器本体１１が扁平な形状をしているために、第１表示部２３と第２表示部２４は、徐々に容器本体１１の最も幅広の部分に引っ張られ、首掛け開口部２１の長円形状における短手方向の一対の縁部が引っ張られて上方に移動し、長円形状における長手方向の一対の縁部が首部１２に引き寄せられて、首掛け開口部２１がさらに容器本体１１の首部１２の基端部分１２ａに圧接するものとなり、首掛けラベル２０の首掛け開口部２１の周囲において容器本体１１の肩部１３にひっかかることによって、首掛けラベル２０の回転が防止される。

【００２４】

本実施形態によれば、首掛けラベル２０の矩形形状の第１表示部２３には、容器本体１１に収容された内容物の利用方法や広告表示等の印刷等が施されている。また第１表示部２３に設けられたポケット２５には、印刷や装飾がなされたシート、又はサンプル等の付属物が収納される。

【００２５】

容器本体１１には、前側の正面１１ａにおける胴部１４の表面に、例えば商品名等、店頭で購入者が当該容器１０又は当該容器１０に収納された内容物を識別する文字や模様等の正面表示が設けられいるため、首掛けラベル２０を容器１０に装着する際には、第１表示部２３を胴部１４の後側に位置させて胴部１４の正面表示が第１表示部２３によって覆われるのを防止する。

【００２６】

一方、首掛けラベル２０の半楕円形状の第２表示部２４は、第１表示部２３よりも首掛けラベル２０における縦方向の長さを小さく、及び／又は第１表示部２３より面積を小さくして形成されており、容器本体１１に首掛けラベル２０が装着された際に、容器本体１１の前側に配置された場合でも正面１１ａの胴部１４の正面表示を隠すことのない長さで取り付けられる。また、第２表示部２４は、例えば「新発売」、「キャンペーン中」等の装飾文字がカラフルな色彩で描かれて、購入者の注意を喚起するような工夫が施されている。従って、第２表示部２４を前側の正面１１ａに配置させて首掛けラベル２０を容器本体１１に装着することによって、第２表示部２４が容器本体１１における胴部１４の正面表示を覆うことのない長さと範囲で容器１０の正面側に垂れ下がるから、第２表示部２４における表示と胴部１４における正面表示の相乗効果によって、首掛けラベル２０を装着した容器１０の広告宣伝効果を一層向上させることができる。

【００２７】

本実施形態によれば以下の作用効果を奏する。すなわち、首掛けラベル付き容器１０の容器本体１１における胴部１４を正面１１ａが幅広の扁平形状とし、可撓性フィルム材料からなる首掛けラベル２０に形成した長円形状の首掛け開口部２１を、短手方向の最大長さＷを首部１２の基端部分１２ａの外径より小さく、長手方向の最大長さＬを首部１２の基端部分１２ａの外径よりも長く且つ容器本体１１の正面１１ａの最大幅より短くしたから、容器本体１１の首部１２に首掛けラベル２０を容易に装着することが可能であって、かつ、装着された首掛けラベル２０が装着位置から回転することを効果的に防止できる。また、首掛けラベル２０が可撓性フィルム材料からなるから、容器本体１１に首掛けラベル２０を装着した際には、首掛けラベル２０における第１表示部２３と第２表示部２４は容器１０の首部１２から下方に垂れ下がるものとなり、首掛けラベル２０が容器１０の首部１２及び胴部１４に沿って容易に装着されることになる。

【００２８】

さらに、本実施形態によれば、容器本体１１の首部１２を挿通して使用をするラベル２０に、容器本体１１に接着させるための粘着層又は接着層や、滑り止めのための切り込みや舌片等を設けなくても、容器本体１１に容易に装着可能であって、且つ、ラベル２０を装着した位置から回転しにくくすることによって、装着したラベル２０の表示部２３，２４を正面１１ａに向けさせて表示機能を発揮したり、又は、容器表面に設けられた表示部をラベル２０で覆うことなく効果的に表示することができる。

【００２９】

尚、本発明は、上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、首掛けラベルにおける長穴の開口部は、長円形状に限定されることなく、楕円形状、長方形状、菱形形状等の他、例えば図３（ａ）～（ｄ）に示す種々の形状を採用することができる。また、首掛けラベルに形成された長穴の開口部は、首掛けラベルの長手方向に平行に長い長穴状に形成しても良いが、容器本体は正面が幅広の扁平形状であることから、首掛けラベルの長手方向に垂直に長い長穴形状とすることで、首掛けラベルにおける長穴の開口部の周囲にしわがよりにくくなる。さらに、首掛けラベルは図２に示す如く、帯状の一端を半円形状（又は角部をＲ形状）とするものに限定されることなく、種々の変形が可能である。さらにまた、容器本体及び／又はキャップは合成樹脂製以外の、例えば、ガラス製、金属製等であっても良い。また、首掛けラベルの表示部には、例えば首掛け開口部側に開口するポケットの他、サンプル等を直接取着して使用することも可能である。

【図面の簡単な説明】

【００３０】

【図１】（ａ）は本発明の一実施形態に係る首掛けラベル付き容器を示す正面図、（ｂ）は同側面図である。

【図２】本発明の一実施形態に係る首掛けラベル付き容器において用いられる首掛けラベルの正面図である。

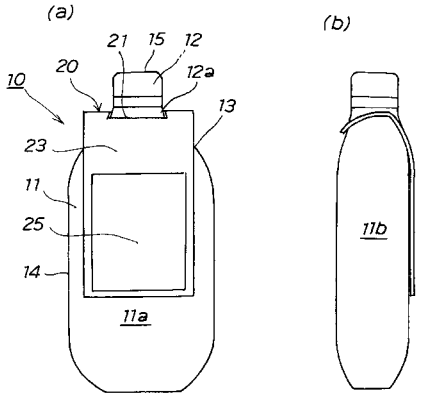
【図３】長穴の開口部の他の形状を例示する平面図である。

【符号の説明】

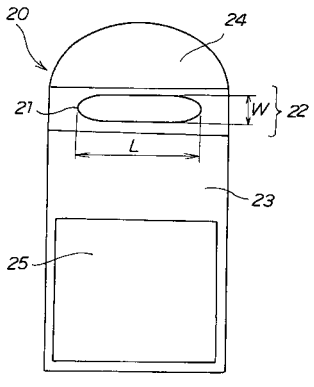
【００３１】

１０　首掛けラベル付き容器
１１　容器本体
１１ａ　容器本体の正面
１１ｂ　容器本体の側面
１２　容器本体の首部
１２ａ　首部の基端部分
１３　容器本体の肩部
１４　容器本体の胴部
１５　キャップ
２０　首掛けラベル
２１　首掛け開口部（長穴の開口部）
２２　首掛け形成部
２３　第１表示部
２４　第２表示部
２５　ポケット

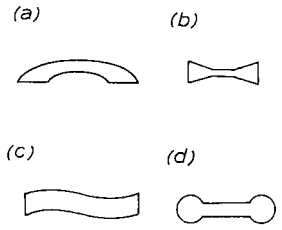
【図１】



【図２】



【図３】



フロントページの続き

(72)発明者　中村　雅之
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内

Ｆターム(参考) 3E062 AA09 AB01 AC02 AC03 AC06 BA08 BA20 BB04 BB10 DA02
DA07
3E095 AA07 BA10 DA52 FA06 FA13